

光記念館年報 第4号 平成16・17年度

光記念館 年報 2006.3

Hikaru Memorial Museum

第4号

平成16・17年度

平成16・17年度 光記念館年報 第4号

平成18年4月1日発行
編集・発行 光記念館
〒506-0051 岐阜県高山市中山町175
TEL 0577-34-6511
FAX 0577-34-6065
<http://www.h-am.jp/>

Hikaru Memorial Museum

光記念館 年報 2006.3

Hikaru Memorial Museum

第4号

平成16・17年度

Hikaru Memorial Museum



www.h-am.jp

もくじ

ご挨拶	3
光記念館の理念	4
施設概要	5
建築概要	5
施設の規模	5
フロアガイド	6
平成 16 年、17 年度事業概要	7
常設展示	7
古代からのメッセージ	7
地質科学より見た飛騨展示室	7
人類史展示室	8
美術展示室	9
特別展	12
「横山大観とその時代展 ～近代日本画に新しい視野を開いて～」	12
「恐竜展 ～恐竜達の鼓動が聞こえる～」	13
「画狂 須田剋太展 ～"創造の生命力"みなぎる芸術世界～」	14
「墨彩画の詩人 山内大童展 ～ぬくもりのある絵との出逢い～」	15
「インカ文明展 ～古代アンデスの秘宝～」	16
企画展示	18
「古代日本のあけぼの ～縄文・弥生・古墳～」	18
「館所蔵 現代アート展」	19
「古代アメリカ文明展」	20
「恐竜ブース ～飛騨の恐竜とその仲間たち～」	21
「環境写真展 ～山から海へ～」	22
「素粒子の世界とエネルギーラボ展」	23
「モホス文明予備調査写真展」	24
講演会	25
「古代日本のあけぼの～縄文・弥生・古墳～」	25
「古代エジプト文明～ピラミッドを造った人々の生活～」	26
「アンデス最古の金製品発掘談」	27
「エジプト文明親子講座」	28
出張美術館	29
体験学習	31
古代からのメッセージ	31
地質科学より見た飛騨部門	32
人類史部門	38
美術部門	42
資料貸出	46
新種紹介	46

ご挨拶

此の度、光記念館年報第4号（平成16年、17年度）を刊行致します。

当館は平成11年4月に開館してより、8年目を迎えました。この間の事業として、特別展においては、「横山大観とその時代展」「恐竜展」「須田剋太展」「山内大童展」「インカ文明展」を開催して参りました。

教育普及活動としては、文化庁芸術拠点形成事業（平成15～17年）に採用され、小・中学校や高齢者福祉施設に出向いての「出張美術館」を行いました。また館外活動としては、科学技術振興機構 地域科学技術理解増進人材の活動支援・人材育成「理科大好きボランティア支援」事業に採用され、「飛騨（中生代）の化石を探そう」と題し、理科教育の普及活動に努めて参りました。

その他、国宝をはじめとする美術・博物資料の収集・保管、調査・研究を行なっております。

尚、国内をはじめ海外の美術・博物館に作品・資料の貸し出し、出品を行ない他館との連携を深めると共に国際交流を展開しております。

今後とも、地域社会に貢献させて頂くと共に国際交流豊かな総合博物館として、事業・施設の充実を図って参ります。

ここで、これまでご協力を賜りました関係機関・関係者各位に心より厚く御礼を申し上げますと共に、今後も当館の運営・事業に対しまして格段なるご指導とご鞭撻を賜りますよう謹みてお願い申し上げます。

平成18年3月31日

光記念館 館長代理
平塚林司

光記念館の理念

1. テーマ「光」

地球環境との対話が叫ばれる今日、生命エネルギーの根源である「光」をテーマに博物館活動を行なう。

「光」のテーマは広範囲である。太陽からの光、自然からの光、化石等過去の物質からの光、人工的な過去の文明からの光、また、芸術・美術、人の心からの光など。こうした人類に向けて放たれる光を多方面にわたり

- ① 資料収集・保管
- ② 調査研究
- ③ 資料・収蔵品の紹介・展示
- ④ 教育普及活動

することにより、人類・社会の精神的・物質的な向上を目指すものとする。

来館者が、長い年月の中で地球や人類が育んできた歴史をたどり、自然と人類が残した優れた美・芸術・文化に触れることにより、今後の生き方、未来へ歩む方向性を見出せるような活動を展開して行く。

2. 飛騨地域は、特有（古生代から新生代）の地層・地質・岩石・化石等を保有している。そこに住む人々の歴史と伝統文化を紹介することにより、地域に融和した文化環境の向上を目指す。

地元、飛騨地域（高山市を含む）を中心に、岐阜県及び中部地区に貢献できる社会教育施設として、博物館活動を展開して行く。

3. 老若男女を問わず、子供から大人まで気軽にご来館いただける公共施設として、生涯教育に役立つ総合博物館として、特に、今後の未来を担う青少年の知育向上のための教育施設として広く一般に利用していただくことを目的とする。

4. 世界古代文明の遺物や優れた芸術品を展示・紹介することにより、国際交流の推進並びに地域社会の国際化にも貢献する。

そのため積極的に国際的な企画展を実施して行く。

施設概要

建築概要

所在地 地区・地域 工期	岐阜県高山市中山町175 第2種住居地域 教育文化地区 着工：平成 5年6月23日 竣工：平成10年2月27日 開館：平成11年4月 8日
敷地面積	75,753.75㎡ (22,915坪)
建築面積	14,097.00㎡ (4,264坪)
建ぺい率	19.78% ≤ 48.17% (地区計画)
延床面積	32,668.81㎡ (9,882坪)
容積率	45.84% ≤ 76.34% (地区計画)

施設の規模

駐車台数	来館者用 乗用車 105台 バス 27台 職員用 乗用車 66台
見学ゾーン面積	
1階	3,750.62㎡ (1,135坪)
地下1階	2,812.12㎡ (851坪)
地下2階	7,013.97㎡ (2,122坪)
合計	13,576.71㎡ (4,107坪)
能舞台	1舞台
小ホール	108席
収蔵庫面積	1,534.62㎡ (464坪)
図書室	30席
レストラン「ピラコチャ」	108席
和風レストラン「日玉の里」	82席 (団体予約専用)
立礼席	32席
美術館棟の外形	101m×86m
外部ピラミッドの高さ	20.7m (中央床面より)
内部ピラミッドホールの天井高	21.7m (地下2階フロアより)
可変床面積	1,353㎡ (409坪)

平成 16 年、17 年度事業概要

常設展示

古代からのメッセージ

1, 展示目的

人類は発生より現在まで「幸福」を求め続け、今や絢爛豪華で便利な物質文明を極度に発展させた。その一方で現在、未来人類の存在すら危ぶまれる状況を出している。科学・医学・政治・経済・教育・宗教等の研究学問技術は個別に発達し、その相互の関連性の中で矛盾と対立を生み出している。それは、人類が直面している危機的諸問題解決の妨げとさえなっている。この人類規模の危機的状況を克服し、人類悠久繁栄と真の幸福という目的に向かってあらゆる分野を総合一体化させることの必要性を提案することが本展示室の目的である。

社会科学・自然科学の様々な分野から研究成果を紹介することにより多様な知識を提供できる。また、学問として確立されていないものについても中立の立場から紹介し、より豊富な情報を提供している。

2, 展示内容

あらゆる分野からのテーマで展示を行っている。社会問題や科学、歴史等、既に学問として確立されたものや現在調査研究を行っているものについても展示している。常に中立的な見解からの展示を行ない、多様な側面からの情報知識を紹介する。

3, 展示手法

実物資料、グラフィック、映像、検索映像、映像（小ホール）
※「映像（小ホール）」では120インチプロジェクター1台と椅子108席を設置している。夏季を中心に監修の先生方並びに当館学芸員による特別講座を開催し、展示の補足や学習の補助を行なっている。

4, 開催した企画展

- ①環境写真展～山から海へ～
平成16年9月18日～12月23日
- ②素粒子の世界とエネルギー展
平成17年2月16日～6月12日
- ③モホス文明予備調査写真展
平成17年7月1日～開催中

地質科学より見た飛騨展示室

1, 展示目的

現代の人類社会を支える自然が現在の姿になるまで、人類を含む全ての生命が果たしてきた役割と環境の変化を紹介する。いつの時代においても1つ1つの生命には役割があり、一切無駄無く配置されている。生命と環境の長い歴史と積み重ねを知ることにより、自然をかけがえのないものとして再認識し、慈しむ心を育てる。

2, 展示内容

飛騨は古生代の福地累層、中生代の手取層群、新生代の火砕流堆積層等各年代の地層や岩石が露出していることで有名である。飛騨の実物資料を通して、地球の自然界における普遍真理を捉え、一切無駄無く培われた生命の役割と命の尊さ、環境との関わり等を紹介している。展示は飛騨産の化石と考古資料を中心に古生代から現代までの飛騨の歴史と生命の関わりを提示している。展示は命と心の大切さを伝えられるよう、復元模型やジオラマに力を入れた。特に植物ジオラマは、葉脈に至るまで化石を元に忠実に復元している。

〈輝く生命の星〉

導入部に宇宙から見た地球を表現し、自然の美しさと思議さを提示しながら視点を飛騨に絞っていく。

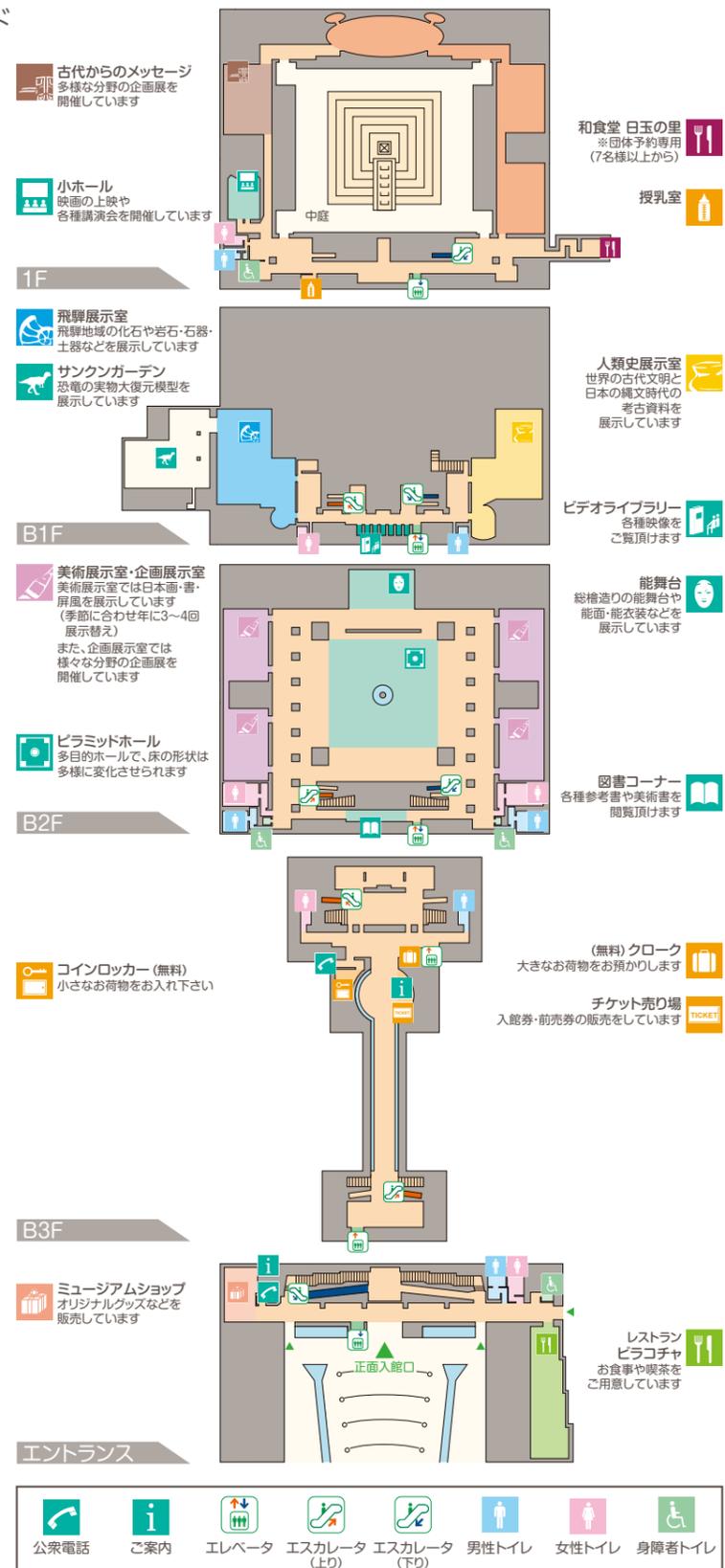
※展示手法

地球模型。100インチモニター映像。実物資料：アエンデ隕石

〈古生代〉

飛騨にある古生代の地層から、サンゴをはじめとする海の生き物の化石が数多く発見されている。これらの原始生物は何億年もかけて大量の酸素を放出し、生命の星とよばれる地球の基礎となる、オゾン層や大気等の環境をつくったといわれている。また、現在の珊瑚礁のように、古生代のサンゴと藻類等も理想的な共生関係を保って繁栄

フロアガイド



を遂げたことを紹介している。

※展示手法

実物資料…海生動物化石・岩石。

復元模型…実物資料を用いて、福地累層・デボン紀岩盤の一部を原寸大に復元した。

ジオラマ…デボン紀・石炭紀・二畳紀の海の様子を忠実に復元した。

ミラービジョン、映像。

〈中生代〉

飛騨地域にまたがる中生代の地層「手取層群」は恐竜や植物化石を多く産出することで知られている。海から陸、湖、川、空へと生活環境を広げ、動物と植物が共生しながら繁栄を遂げ、中生代の生活環境をつくったことを伝える。

※展示手法

実物資料…陸上植物化石・海生動物化石等。

ジオラマ…手取型植物群を原寸大で葉脈に至るまで、精巧に復元した。

恐竜模型…手取層群から発見されたスギヤマリュウ・カガリュウの原寸大復元模型。

〈新生代〉

飛騨の山々は、新生代の活発な火山活動とプレート活動によって形成されたといわれている。大地の巨大なエネルギーを地形の痕跡等から伝える。

また、新生代は人類が出現し、活動を始めた時代でもある。

人類が作った道具を地球史46億年の産物である岩石、粘土、木の素材表現をするという視点で展示し、自然の産物を借用して人類は営み始めたことを伝えている。自然に適應するために道具を作り、自然素材の特性を活かして繁栄を遂げた人類と自然との共生を紹介する。

※展示手法

実物資料…石器、土器、岩石。

映像模型…噴火と再生の様子を紹介。

〈考古〉

高山市丹生川町広殿遺跡の紹介

※展示手法

実物資料…土器・石器

〈学習コーナー〉

展示を振り返り、楽しみながら復習をする場とする。

べたべたちそー（地層）をやってみよう…古生代・中生代・新生代の3つの時代の地層を

作り各時代の生きていたもの（ぬいぐるみ）を貼り付ける体験学習。

※学習手法

Q & A コーナー…タッチパネルモニターでの、展示内容を題材にした3択5問のクイズで、展示の復習を促している。

体験学習室…多目的スペース。実物資料に触れる、企画展等を計画。

体験学習室…触れる化石、拓本体験コーナー、恐竜パズル、等。

人類史展示室

1, 展示目的

展示は、人類が共通して持つ普通の心、『崇める心』をテーマにした。古来より人類は自然を畏れ尊び、人間の知恵と力の及ばないところに神の世界があると考え、崇める心を培ってきた。豊かな文化や現代にまで残る遺産といった古代文明の所産は「崇める心」の象徴であり、現代文明においても人々の心のよりどころとなっている。また、先人の努力があって我々も今日の生活を営めるのであり、何千年も前から現代にまで通じる文化の共通性・独自性を知ること、今後の文化・文明を考える上でも重要である。ダイナミックな造形を生んだ世界各地の文化遺産の展示を通して、21世紀を生きる現代人の視野を広げ、文明を育む原動力となった人類の“心”を問う場を提供している。

2, 展示内容

人類史展示室では、世界各地の考古資料を各文明・文化ごとにまとめた展示を行なっている。旧石器時代から世界の7つの文明と日本の縄文時代について、その全体像と精神性を実物資料、模型、解説パネル、映像、ミラービジョン等によって紹介している。

『崇める心』をテーマに人類の心を探り、その帰結としての諸文明を提示している。

〈旧石器時代〉

約400万年以上前から世界各地に広がった人類は、厳しい自然環境に適應しつつ豊かな文化を育んでいった。火の使用、石器の加工技術、豊穡や秩序を祈る洞窟壁画等を通して、旧石器時代の人々の『崇める心』を中心に紹介する。

※展示手法

実物資料…旧石器。

縮小模型…旧石器時代の洞窟壁画。

〈世界の古代文明〉

約1万年前頃から、世界各地に文明・文化が興っていった。古代文明展示の導入として大型の地図・年表を配置し、7つの文明と日本の縄文時代の地理的・時代的な位置関係を一覧できるように工夫した。

各文明に見られる環境や遺跡・遺物を一堂に見ることで、それぞれの相違点や普遍性を垣間見ることができる。

※展示手法

世界地図に8つの21インチモニターを配置し、各文明の気候風土・代表的な遺跡・遺物を映像で一覧できる。

〈古代文明〉

紀元前3000年頃より栄えた世界的にもよく知られる7つの文明を、展示コーナーごとに分けて展示している。

世界各地の古代文明を社会のあり方や建築、実物資料の造形や紋様等、多方面から見つめ、比較することで、それぞれの文明を支えた人々の宗教観・死生観を探り、人類の未来を模索する。

※展示コーナー

- ①メソポタミア文明
- ②ギリシア・地中海文明
- ③エジプト文明
- ④インダス文明
- ⑤中国文明
- ⑥メソアメリカ文明
- ⑦アンデス文明

※展示手法

実物資料…

保存状態の良い副葬品の展示。特に中・南米は当時の人々の精神性を伝える土器や、布製品等の一級資料で充実している。

グラフィック…

大型写真パネル、地図・年表、解説文を全文明統一した手法で配置した。

模型資料…

当時の人々の精神性を伝える神殿縮小模型（ウルジクラット・パルテノン神殿・ティカール神殿）、エジプト太陽の船縮小模型、三内丸山遺跡の復元模型、巨木柱等を設置している。また、アンデス文明『太

陽の門』の精巧な原寸大の模型は、現地の天野博物館にご協力いただいた資料を元に作成した。

〈縄文〉

縄文時代は近年の発掘・調査・研究により、その生活水準の豊かさが見直され、現在でも新たな発見が相次いでいる。自然と共に生き、1万年以上もの間続いた縄文時代の全体像を提示し、同時期に栄えた世界の文明と共に展示する。

※展示手法

実物資料…土偶、土器、石製品。

レプリカ…木製品、土器。

ミラービジョン…三内丸山遺跡の5500年前と発掘時の様子を縮小模型で重ねてみせる。

盛土模型、巨木柱模型、縄文時代の紹介映像

〈学習コーナー〉

展示を振り返り、楽しみながら復習する場とする。

※学習手法

古代文字スタンプ…

エジプトのヒエログリフとマヤ文字のスタンプを用意し、名前や来館日等を古代の絵文字で押して、持ち帰られるようにしている。

土器の立体パズル…

縄文の火炎土器とアンデスの罎形土器を電磁石で組み立て、資料復元のミニ体験ができるようにしている。

Q & A コーナー…

タッチパネルモニターでの、展示内容を題材にした3択5問のクイズで、展示の復習を促している。

スタンプラリー…

展示室内9ヶ所にスタンプを設置し、各文明の建物や器・土偶などのスタンプを押せるようにしている。

美術展示室

1, 展示目的

芸術は古来より人の精神性に深く関わり、洗練されてきた。万人に通ずる清明正直な美の世界から、高い感性を培うことを目的としている。

2. 展示内容

当館では“清明正直”感の漂う日本画や書等の資料を収集している。常設展示室では、所蔵する日本画・書の展示を行ない、作品の保護を考慮して年に3～4回展示替えを行なっている。

また、企画展示室では年に3～4回企画展を開催している。

〈第1展示室〉

当館所蔵の近・現代の日本画を中心とした常設展示。

200点を越す所蔵品の中より、常時約30点を展示し、季節に合わせて年に3～4回の展示替えを行なっている。

※所蔵作家

宮本武蔵、葛飾北斎、歌川広重、竹内栖鳳、横山大観、菱田春草、上村松園、鍋木清方、前田青邨、伊東深水、棟方志功、東山魁夷、他

〈第2展示室〉

当館所蔵の近・現代の日本画や書の大型屏風を中心に展示している。季節感を考慮し、年に3～4回展示替えを行なっている。

※展示作品

横山大観…「不二霊峰」
加山又造…「夜桜」「龍図」
今井俊満…「夏草図」「紅葉賀」
芹沢銈介…型絵染め「いろは」「春夏秋冬」、他

〈能舞台〉

能・狂言は約700年もの間守り継がれてきた日本の伝統芸能である。

能や狂言の演目内容や装束、能舞台の解説を行ない、目に見えない世界や幽玄の世界をも表現する能の、深奥で研ぎ澄まされた芸術性や、人間の本质を突く喜劇・狂言の面白さを伝える。

※展示資料

可動式、総檜造りの能舞台。
能装束一式…「羽衣」、「狸々」等。
60インチプロジェクター映像…
能：「羽衣 和合之舞」「狸々」「狸々乱」
狂言：「栗焼」「口真似」

〈第3展示室〉

当館では、歴史上の著名人（詩人・歌人等）や、近・現代の書家の作品等約200点の書を所蔵しており、その内約30点を常設展示

している。

尚、企画展のスペースが足りない場合は第3展示室も企画展示室として流用し、第1・第2展示室にて書を展示することもある。

※所蔵作家

貫名菘翁、市川米庵、良寛和尚、賀茂真淵、勝海舟、若山牧水、手島右卿、他

〈第4展示室〉

館所蔵資料の他に他館から資料を借用し、芸術世界の先駆者的役割を果たした人物の作品展を主に開催している。

また、420点を越える館所蔵肉筆浮世絵の中から、テーマを決めて企画展を行なっている。

※企画展の内容によっては、第1、第2展示室で常設展、第3・第4展示室で企画展を行なうこともある。

〈映像展示〉

地下1階には各展示室での展示映像を1個所で閲覧できるビデオライブラリー（ブース）を設置している。ここでは現行の展示映像のほかに、これまで放映した過去のプログラムをも閲覧でき、じっくりと腰を据えて学習できるようにしている。

ビデオライブラリーリスト／Video Library List			
No	タイトル Titles	時間 Time	備考 Remarks
111	妙 Wonder	約5分 5 minutes	古代からのメッセージ Messages from Ancient Times
112	メガリス Megaliths	約5分 5 minutes	
113	宇宙の調和 The Cosmos in Harmony	約6分 6 minutes	
211	生命の星誕生 Birth of the Earth	約1分 1 minute	地質科学より見た飛騨展示室 HIDA HALL
212	不思議な動物サンゴ Coral—A Mysterious Life Form	約4分 4 minutes	
213	化石は語る Fossils	約3分 3 minutes	
214	大自然の恵み The Grandeur of Nature	約4分 4 minutes	
215	高山盆地の形成 Formation of the Takayama Basin	約2分 2 minutes	
221	すばらしき化石の世界 The Wonderful World of Fossils	約8分 8 minutes	オリジナルプログラム ORIGINAL PROGRAM
222	大いなる大地 Wonders of the Earth	約8分 8 minutes	
223	自然界の調和 Harmony in Nature	約7分 7 minutes	
311	メソポタミア文明 Mesopotamian Civilization	約2分 2 minutes	人類史展示室 WORLD HISTORY HALL
312	ギリシア・地中海文明 Greek/Mediterranean Civilization	約2分 2 minutes	
313	エジプト文明 Egyptian Civilization	約2分 2 minutes	
314	インダス文明 Indus Civilization	約2分 2 minutes	
315	中国文明 Chinese Civilization	約2分 2 minutes	
316	メソアメリカ文明 Mesoamerican Civilization	約2分 2 minutes	
317	アンデス文明 Andes Civilization	約2分 2 minutes	
318	縄文 Jomon Culture	約2分 2 minutes	
319	縄文の漆 The Use of Lacquer in the Jomon Period	約5分 5 minutes	
320	縄文人の生活と四季 Life in the Jomon Period	約4分 4 minutes	
321	ジョウモン博士とヒカリが探る～巨大木柱の謎～ Dr. Jomon and Hikari Talk about the "Large Wooden Pillar"	約5分 5 minutes	オリジナルプログラム ORIGINAL PROGRAM
322	旧石器人の心 Humankind in the Old Stone Age	約8分 8 minutes	
323	心が描かれた縄文土器 Jomon People and Their Earthenware	約11分 11 minutes	
324	神殿～祈りの造形～ Temples—Places of Prayer	約11分 11 minutes	
411	舞囃子「高砂」"Maibayashi TAKASAGO" A Noh Play (without masks or costumes)	約16分 16 minutes	美術 ART オリジナルプログラム ORIGINAL PROGRAM
412	能「羽衣 和合之舞」 HAGOROMO ~ THE FEATHER ROBE ~	約11分 11 minutes	
413	狂言「栗焼」 Kyogen ~ KURIYAKI ~	約27分 27 minutes	
414	能「狸々」 A Noh Play ~ SHOJO ~	約31分 31 minutes	
415	狂言「口真似」 Kyogen ~ KUCHIMANE ~	約15分 15 minutes	
416	能「狸々乱」 A Noh Play ~ SHOJO MIDARE ~	約35分 35 minutes	

特別展

「横山大観とその時代展 ～近代日本画に新しい視野を開いて～」

会期：平成16年2月26日(木)～平成16年5月16日(日)
作品点数：約90点

《展示目的》

日本近代美術の巨匠「横山大観」。大観は明治維新の年に生まれ、90歳で他界するまで60年以上にわたって精力的に制作や社会活動を行い、美術界のみならず、社会・文化に大きな影響を与えた。光記念館の開館5周年を記念する本企画展は、東洋と西洋の融合をめざして芸術界に旋風を巻き起こした大観の、日本の近代化と日本絵画史上に果たした役割を、今日の視点から検証することを目的とした。

《展示内容》

大観に影響を与えた岡倉天心や、同時代を過ごした仲間の作品を集め、師の言葉や大観の語録を入れることにより、大観の人柄やその時代背景を感じて頂けるように心掛けた。



横山大観が高山で立ち寄った国分寺（グラフィックに使用）

「恐竜展 ～恐竜達の鼓動が聞こえる～」

会期：平成16年5月29日(土)～平成16年9月5日(土)
作品点数：100点

《展示目的》

この地球上に実在した生物「恐竜」を、身近に感じていただくことを目的とし、食性や営巣などを浮き彫りにして理解を深めるとともに、その魅力を紹介していく。

《展示内容》

様々な恐竜の足跡をたどりながら、「地球と生物の接点とは何か？」を実在の証拠（化石）で検証しながら、楽しい推理とともに紐解いていく内容とした。

《グラフィック》

- G-1 ごあいさつ
- G-2 いろいろな恐竜絶滅の原因
- G-3 いろいろな動物の骨組み
- G-4 恐竜時代の海の八虫類たち
- G-5 恐竜のいた中生代
- G-6 恐竜の系統
- G-7 恐竜の子育て
- G-8 恐竜の種類
- G-9 恐竜化石のでき方と見つかる所
- G-10 恐竜時代の空の八虫類たち
- G-11 攻撃と防御
- G-12 骨から始まる恐竜の話
- G-13 足跡と歩行
- G-14 日本で見つかった恐竜



展示室の様子



展示室の様子

「画狂 須田剋太展 ～"創造の生命力"みなぎる芸術世界～」

会期：平成16年9月18日(土)～平成16年12月23日(木)
作品点数：約50点

《展示目的》

才気溢れ、大胆かつ鋭い筆遣いで独創的な世界を表現する須田剋太は、ベストセラー作家 司馬遼太郎氏の「街道をゆく」の挿絵画家として有名。須田画伯は平成2年に84歳で逝去するまで、洋画壇の最高峰として活躍した。本質を的確に表現した抽象・具象の画からは瑞々しい生命力が伝わってくる。まさしく須田剋太は何物にも動じない比類なき感性の持ち主である。本企画展では油彩画、グワッシュ、書、陶芸を通し、画狂「須田剋太」の創造の生命力みなぎる芸術の魅力を紹介することを目的とした。

《展示内容》

作画している様子を見せない須田剋太の、作画中の秘蔵VTRを展示室で放映した。グワッシュ・コラージュ・陶書・書などを通して、迫力や力強さ、迷いのない線など須田剋太の魅力をご覧頂いた。

《体験学習》

○コラージュ

折り紙や包装紙、ボタン、ビーズ、ネジなど身の回りにある様々な素材を用意しておき、来館者（子供から大人まで）にそれらを自由に貼り付けて、コラージュ（貼り絵）の作品を作成して頂いた。お客様が作成した作品を体験コーナーの壁に展示した。



展示室の様子



展示室の様子

「墨彩画の詩人 山内大童展 ～めくもりのある絵との出会い～」

会期：平成17年2月26日(土)～6月12日(日)
作品点数：約120点

《展示目的》

人と人とのふれあいが少ない現代社会のなか、大童の描く「童」や「河童」に出会う時、私たちの心は暖かくなり、和みと安らぎを覚える。そして、詩人「大童」の言葉からめくもりが伝わり、素直に心を動かされている自分に気づくのである。本企画展では、私たちが失いかけている大切な心や、明日も頑張ろうと生きていく勇気を与えてくれる“山内大童芸術”をご堪能頂き、心とんで頂くことを目的とした。

《展示内容》

軸や額、屏風、衝立などを入れ替えも含め約120点展示した。全体的に和やかさを出すために凧や提灯を吊り、空間を利用して動きと遊びのある展示に心掛けた。絵画の中に書かれている言葉や詩のみを抜き出し、書として展示した。

《体験学習》

○絵本の読み聞かせコーナー

お伽話を知らない子供のため絵本のコーナーを設けた。当館の職員や、親子でご来館された方は親が子へ、絵本を読んで聞かせた。



展示室の様子



展示室の様子

「インカ文明展 ～古代アンデスの秘宝～」

会期：平成17年7月1日（金）～平成17年12月11日（日）
作品点数：156点

《展示目的》

インカ帝国は、15世紀頃南アメリカ大陸を南北8000kmに渡って縦断する世界最長のアンデス山脈の地域に出現し、16世紀初頭には日本の約8倍の領土を誇る大帝國に発展した。この一般的にインカ帝国として知られている時代は約60年間しか続いていない。しかし、インカ以前のプレインカと総称されるクピスニケ、チャビン、モチェ、ナスカ、パラカス、レクワイ、ティワナク、ワリ、チムー、シカン、チャンカイ、イカ・チンチャなどの諸文化は、4000年もの間アンデスの多彩な気候風土の中で栄枯盛衰を繰り返している。西の海岸砂漠地域から標高6000m級のアンデス山脈、東のアマゾンにまで人々は広がり、アンデス原産の食物を豊かに育て、独自の文化を繁栄させた。文字も大型家畜も持たないアンデスの人々は、紀元前2000年頃から神殿建築を行ない、黄金製品や土器・織物などを伴う豊かな文化を培った。

本企画展は、発掘された土器・木製品・金属製品・織物等の展示を通して、数千年の歴史を持つアンデスの多様な歴史・文化を紹介するものである。

尚、現在に受け継がれるインカの祭りや文化、征服後の影響や日本の飛騨高山における山岳文化との比較などを行ない、時空を超えて各国の文化の理解と交流を深めることを目的とした。

《展示内容》

「インカ文明展」では、最新の学術成果を踏まえ、悠久の歴史と多彩な環境の中で培われたアンデスの諸文化について、光記念館所蔵のユニークな形の土器や木製品・色鮮やかな織物・黄金製品などを156点紹介する。そして、東京大学総合博物館よりクントゥル・ワシ遺跡の黄金製品レプリカ8点、ペルー大使館よりカパック・ニヤン（偉大なインカ道）の写真パネル40枚を借用し、同時に展示させて頂いた。



展示室の様子



展示室の様子



儀式用金製ナイフ「トゥミ」



パッチワーク貫頭衣



カコとヘビの戦士鎧型土器

《体験学習》

- 触れてみよう
レプリカ土器・食品・楽器・キープ・オンダ
- パズル
南米地図・リヤマ・黄金製品・12角の石
- 写真撮影コーナー
黄金の部屋・マチュピチュ（リヤマと民族衣装付き）
- 金属アクセサリー作り（1回100円）
- 金粉砂絵（無料）
- スタンプラリー



黄金の部屋



記念撮影コーナー



金属アクセサリー作り・金粉砂絵

企画展示

「古代日本のあけぼの ～縄文・弥生・古墳～」

会期：平成16年2月26日(木)～平成16年12月23日(木)
作品点数：約50点

《展示目的》

古代日本文明の基層は約1万年以上も繁栄をとげた縄文時代につちかわれた。森や海に恵まれ、土器や漆・織物・石器の加工技術、木造建築などを伴う豊かな文化が興り、後の繁栄の礎となった。また、弥生時代には大陸にある他国と交流しながら稲作文化を基軸とした国造りが行なわれた。古墳時代には国家が発展し、国を統括する権力者の大型化した墳墓・祭祀場や威信具・装身具が生産された。古代日本文明の基層となる三つの文化の特徴を実物資料と共に紹介し、現代文明への流れを考える場を提供することを目的とした。

《展示内容》

縄文時代の土器・石器・装身具、弥生時代の土器・石器・青銅器・装身具、古墳時代の土器・青銅器・装身具の実物資料を展示し、パネルでは各時代の特徴・代表的な建物や国際交流の様子などを紹介した。

《体験学習》

解説小冊子…クイズ形式で各時代の特徴を学び、資料をスケッチする。



展示室の様子



遮光器土偶《縄文》



解説小冊子 表紙

「館所蔵 現代アート展」

会期：平成16年5月29日(土)～平成16年9月5日(日)
作品点数：24点

《展示目的》

鑑賞者の中には現代アートを前に、「これは何?」「なぜ、これがアートなの?」と疑問を抱く方も少なくない。ある作品は鑑賞者の直接的な反応を要求し、また他の作品は、時間をかけてじっくりと見るという態度を鑑賞者に期待しているように見える。いずれにせよ現代アートの作品の多くは見る度に鑑賞者を刺激し、何か新しい思いや考えを湧き立たせてくれる。本企画展では鑑賞者に対して、注意深く、意識を持って鑑賞し、自由な発想で感じる『現代アート』の魅力を知って頂く事を目的とした。

《展示内容》

会期が夏休みということもあり、子供にも分かりやすい楽しい展示に心掛け、自由な発想で感じて頂けるようにキャプションなどにも工夫を凝らした。天井から作品を吊り下げて展示するなど、展示室の空間を最大限に生かし、立体的な展示を行なった。



展示室の様子



展示室の様子

「古代アメリカ文明展」

会期：平成17年2月26日(土)～平成17年12月11日(日)
作品点数：約50点

《展示目的》

新大陸と呼ばれたアメリカでは、中世まで他の文明と交わることなく独自の文明を発展させていた。アメリカ大陸の古代文明はまだまだ神秘的なベールに包まれているが、人類に共通する普遍的な心「崇める心」を持ち、神殿や祭祀道具を作って繁栄をとげていた。当館の建物のモデルとなった中米のメソアメリカ文明や中間領域に栄えたコロンビア・エクアドル・コスタリカ・パナマなどの代表的な出土品を、文化の特徴と共に紹介することを目的とした。

《展示内容》

中米に栄えたオルメカ・テオティワカン・マヤ・アステカなどの祭祀用土器や石製品、中間領域コロンビアの金製品や土偶、エクアドル・コスタリカ・パナマの土器や石製品を解説パネルと共に展示した。

《体験学習》

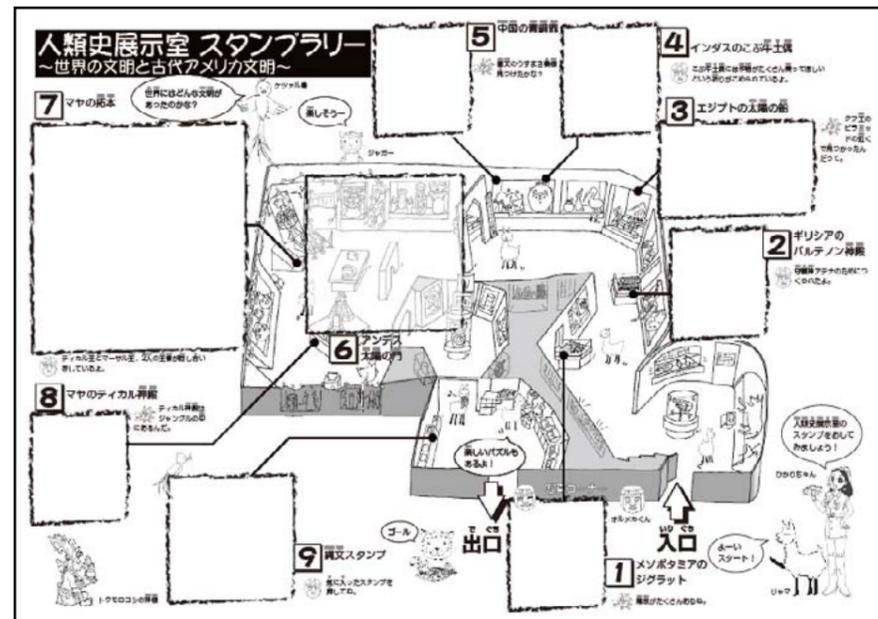
- スタンプラリー
- 写真撮影コーナー
(オルメカ巨人頭像模型)



展示室の様子



人物彩色筒壺



スタンプラリー
ワークシート

「恐竜ブース ～飛騨の恐竜とその仲間たち～」

会期：平成17年7月21日(木)～9月13日(火)
作品点数：約50点

《展示目的》

大人から子供まで興味のつきない「恐竜」について、より深い関心を持つきっかけとなり、さらに夏休みの課題の手助けになることを目的とした。

《展示内容》

中生代の地層が露出している手取層群（岐阜県・石川県・福井県の県境一帯）は、学術的にも貴重な、恐竜を含む多くの化石が発見されることで知られている。本ブースでは高山市荘川町から発見された恐竜の化石を中心に展示を行い、鳥類と一部の恐竜は基が同じであったという最近の通説なども紹介した。

《グラフィック》

- G-1 ごあいさつ
- G-2 手取層の恐竜・荘川町の化石
- G-3 恐竜の系統図
- G-4 地球歴史カレンダー
- G-5 人と恐竜の生きていた長さの比較
- G-6 共生
- G-7 恐竜ってなーに
- G-8 今後の研究課題



展示室の様子



展示室の様子



展示室の様子



展示室の様子

「環境写真展 ～山から海へ～」

会期：平成16年9月18日～12月23日

《展示内容》

現在の人類を取り巻く身近な自然・海や山のすばらしさ、美しさ、そして危うさを、美しい写真と展示解説映像により紹介した。通常の写真展に見られる目を背けたくなるような悲惨な写真の展示がなかった為、美しい写真に隠されている危うさについては展示解説映像により補った。展示解説映像をご覧いただいたお客様からは、「人と自然の関わりについて改めて考えさせられた」「私たちの日常生活が自然にもたらす影響を教えてください、日々の生活についてどうすればよいのかと考えた」「山と海は想像以上に密接に関係しあっていることが分かり地球という大きな枠組みで考えることが必要だと感じた」等の感想をいただいた。時間のない来館者には自然の美しさを、展示解説映像までご覧いただいた来館者には自然を含む地球という大きな視点から「自然環境」の本当の意味を再考していただけたものと思われる。

協力：(株)水生生物生態研究所様、東京コミュニケーションアート専門学校様



「素粒子の世界とエネルギーラボ展」

会期：平成17年2月26日～6月12日

《展示内容》

「物質は何からできているのか」という古代から現在まで続くこの疑問が科学を進展させた。現在におけるその答え・素粒子の研究は、物質だけでなく宇宙についてまで多くのことを解明した。しかし、研究はさらに未知の部分を増加させ今後の研究を必要としている。素粒子について簡単に、グラフィックを多く用いて紹介した。また、子供には映像による理解を期待した。日常あまり触れることのない物質の根源や宇宙について来館者に考える機会を提供できたと思われる。エネルギーラボは、子供たちにエネルギーの種類や仕組みについて遊びながら学ぶ体験学習型展示であった。ラボはテレビゲーム形式のものや実際に子供が体を使ってエネルギーを起こすものなど種類も豊富で好評であった。子供たちはエネルギーラボで遊び、大人は素粒子のグラフィック・映像の展示を見るという大人も子供も学べる企画展であったといえる。

協力：科学技術振興機構様、つくばエキスポセンター様、名古屋市科学館様、豊橋市地下資源館様



「モホス文明予備調査写真展」

会期：17年7月1日～（平成18年9月まで展示予定）

《展示内容》

南米大陸中部のボリビア国東北部、アマゾン川源流地帯に「モホス大平原」がある。この「モホス大平原」で未知の古代文明が展開した可能性は20世紀初頭から指摘されていた。20世紀後半にはアメリカ、ドイツ、ロシア等の研究者が調査を始め、日本も2000年から予備調査を進めてきた。2005年8月に本格調査が実施された。これまでの3度にわたる予備調査の結果を世界で初めて写真により紹介した。また、空撮した「モホス平原」映像と調査団の副団長による展示解説を映像展示として使用した。日本ではほとんど知られていない「古代モホス文明」についての予備調査ではあるが、そ

の結果を調査団長、副団長にご協力いただき、世界で初めて展示できたことは大変意義深いことである。

開催当初より歴史に興味ある来館者からは好評であったが、平成18年3月にテレビで「モホス文明」が放映されて以来、一般の来館者にも興味深くご覧いただいている。

協力：立教大学社会学部、実松克義教授（調査団長）



講演会

「古代日本のあけぼの～縄文・弥生・古墳～」

日時：平成16年5月30日（日） 13:00～14:30

講師：岡田康博先生（文化庁文化財部記念物課 文化財調査官 ※H18,4,1より 青森県教育庁文化財保護課 三内丸山遺跡対策室 室長）

場所：当館1階小ホール

参加人数：54名

講座概要：文化庁での発掘のあり方や、青森県三内丸山遺跡、その周辺のストーンサークルの発掘・保存状況などをパワーポイントを使いながら詳しくお話いただいた。また、平成16年6月1日から開催された文化庁主催の「発掘された日本列島2004」の展示内容も一部ご紹介していただき、飛騨地域と関連のある遺構の説明もしていただいた。



岡田先生



「古代エジプト文明～ピラミッドを造った人々の生活～」

日時：平成16年8月22日（日） 13:00～14:30
講師：村治笙子先生（古代オリエント博物館 非常勤研究員）
場所：当館1階小ホール
参加人数：84名

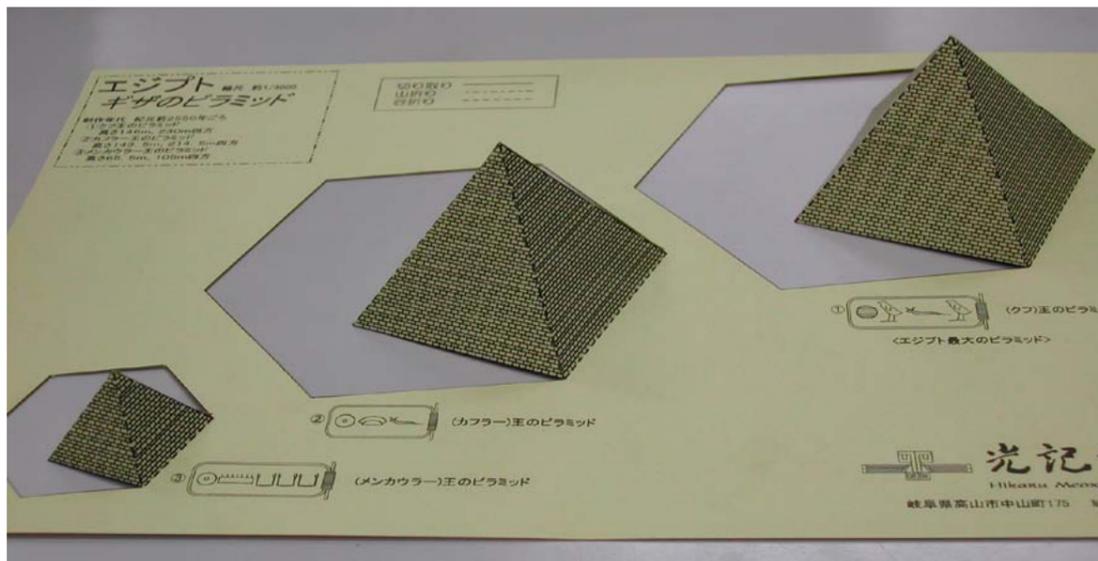
講座概要：参加者にギザの三大ピラミッドのペーパークラフトとヒエログリフ一覧を配布し、パワーポイントを使った映像を見ながら、エジプト文明やヒエログリフに関するお話をいただいた。その後、実際に子供達一人一人にヒエログリフを書いてもらう体験を行った。



「アンデス最古の金製品発掘談」

日時：平成17年7月10日（日） 13:30～15:00
講師：大貫良夫先生（東京大学名誉教授）
場所：当館地下2階特別企画展「インカ文明展」展示室
参加人数：54名

講座概要：大貫先生を中心とする調査団のクントゥル・ワシ遺跡での発掘調査及びアンデス最古の金製品発掘の際の体験談と併せて、特別企画展「インカ文明展」の展示解説をしていただいた。企画展に合わせた講演内容で大変興味深く、青木元駐ペルー大使にもお越し頂き、意義深いものとなった。後日この内容をDVDにし、展示室内で随時放映した。



「エジプト文明親子講座」

日時：平成17年8月21日(日) 13:30~15:00
講師：村治笙子先生（古代オリエント博物館 非常勤研究員）
場所：当館地下1階人類史展示室
参加人数：50名

講座概要：初めに展示室前のスペースで、古代エジプトの地理や神々、人々の持つ死生観などのお話をいただいた。その後展示物を間近に見られるようにし、カラースライドと展示物を見ながら古代エジプトにおける文化や風習、ヒエログリフなどについてをわかりやすくお話いただいた。



出張美術館

出張美術館実施にあたって

わが国は今、世界で最も長寿の国となり、高齢者も増加の一途にある。現在65歳以上の高齢者が全人口に占める割合は18%であり、2020年には25%に達すると予想されている。

このように高齢化社会が急速に進むわが国において、高齢者の方々が知的・精神的に健全で充実した第二の人生が送れるように、博物館の果たす役割も多様化かつ高度化しつつある。

その為、作品や出土品など多くの学術資料が豊富にある博物館には、積極的に高齢者の学習支援活動が求められてきている。そのような中で、大正・昭和時代に使われた生活資料の保存・再現により、それらを活用した高齢者ケア（回想法）を行なっている博物館も存在している。

しかし、この回想法が少しずつ博物館で実施されはじめてはいるものの、施設等を充実して高齢者ケア（回想法）を行なうことは、予算的・人的に困難な面が否めない。

当館が実施した出張美術館は、高齢者の中に身体が不自由で施設から外出できない方も多くいる現状を鑑み、高齢者学習支援として行なったものである。平成16年にはITを活用した高齢者対象プログラムを考案・実施し、平成17年はさらに五感を使った回想法を取り入れてプログラムの充実を図った。

また、小中学校に関しては教育普及活動の一環として、平成15年同様学校側の要望に応え実施した。

出張美術館実施施設

平成16年度

- ①松倉中学校
日時：10月7日（1、2、3限）
対象：3年生 合計175名
- ②西小学校
日時：10月12日（6限）
対象：5、6年生 合計92名
- ③中山中学校
日時：10月19日（1、2、3限）
10月20日（2、4限）
対象：3年生 合計167名
- ④荘川小学校
日時：10月26日（5、6限）

- 対象：全校児童 合計61名
 - ⑤岩滝小学校
日時：10月28日（4限）
対象：全校児童 合計50名（授業参観保護者含む）
 - ⑥山王小学校
日時：11月11日（6限）
対象：6年生 合計103名
 - ⑦江名子小学校
日時：11月12日（1、2限）
対象：6年生 合計31名
 - ⑧特別養護老人ホーム 豊楽園
日時：11月15日（14時~15時）
対象：約30名
 - ⑨南小学校
日時：11月18日（1、2、3限）
対象：6年生 合計81名
 - ⑩久々野小学校
日時：11月30日（5限）
対象：6年生 合計32名
 - ⑪宮小学校
日時：12月1日
対象：3年生 合計184名
 - ⑫特別養護老人ホーム 新宮園
日時：12月3日（14時~15時）
対象：約55名
 - ⑬荘川中学校
日時：12月7日（5限）
対象：全校生徒 合計30名
 - ⑭新宮小学校
日時：12月9日（3、4限）
対象：6年生 合計61名
 - ⑮特別養護老人ホーム 南風園
日時：12月13日（14時~15時）
対象：約30名
 - ⑯身体障害者療護施設社会福祉法人 飛騨慈光会 飛騨うりす苑
日時：12月15日（14時~15時）
対象：約20名
- 平成17年度
- ①南小学校
日時：10月17日（1、2、3限）
対象：6年生 合計87名
 - ②小坂小学校

*****ヒエログリフ 五十音表***** → 光記念館

PYBY	J	GYRY	MYHY	NY	CHSHKY	P	B	D	Z	G	N	WR	Y	M	H	N	T	S	K	
ピ	パ	ピ	パ	ピ	パ	ピ	パ	ピ	パ	ピ	パ	ピ	パ	ピ	パ	ピ	パ	ピ	パ	A
ビ	バ	ビ	バ	ビ	バ	ビ	バ	ビ	バ	ビ	バ	ビ	バ	ビ	バ	ビ	バ	ビ	バ	I
ブ	バ	ブ	バ	ブ	バ	ブ	バ	ブ	バ	ブ	バ	ブ	バ	ブ	バ	ブ	バ	ブ	バ	U
エ	バ	エ	バ	エ	バ	エ	バ	エ	バ	エ	バ	エ	バ	エ	バ	エ	バ	エ	バ	E
オ	バ	オ	バ	オ	バ	オ	バ	オ	バ	オ	バ	オ	バ	オ	バ	オ	バ	オ	バ	O

*現代のアラビア語などからみて、イとエ、ウとオは区別されなかったとみられるが、便宜上イ・エ・ウ・オをそれぞれ当てはめた。
*ヒエログリフは本来母音を表記しないが、別母音の中で母音に近い韻字首を最も近い母音に当てはめた。

作例

み か ん

り ん ぞ

自分の名前を書いてみよう!

- 日時：10月18日（5限）
対象：6年生 合計26名
- ③中山中学校
日時：10月20日（1、2、3限）
10月21日（2、3限）
対象：3年生 合計157名
- ④松倉中学校
日時：11月10日（2、3限）
11月11日（1、2、3限）
対象：3年生 合計147名
- ⑤シニア・ホーム
日時：11月21日（14時～15時）
対象：約30名
- ⑥国府小学校
日時：11月25日（2、3限）
対象：6年生 合計80名
- ⑦北小学校
日時：11月28日（2、3、4限）
対象：6年生 合計112名
- ⑧北小学校
日時：12月1日（2、3、4、5限）
対象：3年生 合計115名
- ⑨特別養護老人ホーム 豊楽園
日時：12月6日（14時～15時）
対象：約30名
- ⑩特別養護老人ホーム 新宮園
日時：12月8日（14時～15時）
対象：約40名
- ⑪身体障害者療護施設社会福祉法人
飛騨慈光会 飛騨うりす苑
日時：12月9日（14時～15時）
対象：約15名
- ⑫新宮小学校
日時：12月12日（3、4限）
対象：6年生 合計64名
- ⑬江名子小学校
日時：12月13日（3、4限）
対象：6年生 合計52名
- ⑭特別養護老人ホーム 南風園
日時：12月14日（14時～15時）
対象：約30名



小坂小学校



新宮苑



南小学校



南風園

体験学習

古代からのメッセージ

【高山市教育委員会 生涯学習課主催 土曜教室】

固体燃料ロケットを打ち上げよう！（モデルロケット作り）

期 間：平成16年8月28日・12月18日／平成17年4月23日・5月21日・8月27日・10月15日 15：00～17：30

参加者：47名

参加費：500円

場 所：光記念館(工作室)・原山市民スキー場（打ち上げ場所として使用）

対 象：小学4年生～中学生

目 的：固体燃料モデルロケットを作成することを通して、ロケットの原理や宇宙開発について学習をし、宇宙科学への興味関心を促すことを目的とする。また、廃材を利用することによって環境問題にも関心が持てるようにする。

内 容：宇宙開発やロケットの原理の説明。その後、廃材や身近な素材でモデルロケットを作成し、打ち上げを行う。

評 価：光記念館オリジナルのモデルロケット作成キットを作成したことにより、短時間でモデルロケットの作成が可能になった。参加者全員が打ち上げに成功することができた。打ち上げ時には参加者全員一様に感動していた。複数回参加しているリピータもあった。

課 題：打ち上げ場所は基本的に光る記念館の駐車場で行ったが、広さなど不十分な点がいくつかある為、今後打ち上げ場所については検討したい。

今後の活用：各種イベント行事に活用していきたい。

宇宙線を見てみよう！（霧箱作り）

期 間：平成17年4月16日 10：30～12：00

参加者：12名

参加費：100円

場 所：光記念館（工作室）

目 的：宇宙線という今まで知らなかったもの

について学び、感じることによって新しい世界に興味や関心を持つきっかけを提供する。

内 容：霧箱（手作り宇宙線観測器）を作って目に見えない宇宙線の飛跡を観察する。

評 価：参加者全員が宇宙線を観察することが出来たことは非常に良かった。パワーポイント等を使い分かり易い説明に心掛けたが宇宙線や霧箱の仕組みについての学習は小学生が理解するには少々難しい内容であったようにも思われる。

課 題：複数の霧箱で観察を行う為、飛跡の見え方に差が生じる。この差を少なくすることが今後の課題である。

今後の活用：学校への貸し出し等を行って行きたい。

【ゴールデンウィーク・お盆期間の体験学習】

宇宙線を見てみよう！

期 間：平成17年4月29日・8月12日 約45分

定 員：10名

参加費：無料

場 所：工作室

目 的：宇宙線という今まで知らなかったものについて学び、感じることによって新しい世界に興味や関心を持つきっかけを提供する。

内 容：霧箱（手作り宇宙線観測器）を作って目に見えない宇宙線の飛跡を観察する。

評 価：参加者全員が宇宙線を観察することが出来たことは非常に良かった。パワーポイント等を使い分かり易い説明に心掛けたが宇宙線や霧箱の仕組みについての学習は小学生が理解するには少々難しい内容であったようにも思われる。

課 題：複数の霧箱で観察を行う為、飛跡の見え方に差が生じる。この差を少なくすることが今後の課題である。

【企画展体験学習】

割り箸かご作り！

期 間：平成16年9月18日～12月23日（「環境写真展～山から海へ～」開催期間中）

毎週日曜日 約45分

定 員：5名

参加費：無料

場 所：図書コーナー

目 的：ゴミとなるものでも工夫次第で生活に役立つものに生まれ変わることを実際に体験することを目的とする。

内 容：館内のレストランで使用した割り箸を煮沸消毒し、それを使って役に立つかごを作る。

評 価：参加者のほとんどが主婦であり、大人向けの体験学習と言える。割り箸を重ねて接着剤でとめていくという単純な作業だが非常に楽しそうに見えた。家庭のゴミを管理する機会の多い主婦に参加していただいたことは、生活と環境問題を身近に感じる良い機会となったと思われる。

課 題：出来あがりが大きくて持ち帰っていただきづらかったようだ。大きさにバリエーションを持たせるなどの工夫が必要である。

【その他】

宇宙桜植樹式

平成17年10月22日午前9時、光記念館車寄棟において「宇宙桜」の植樹式を開催し、高山市内の小学生約20名と父母ら他の約100名が参加した。報道関係の取材もあり、翌日4社の新聞に記事として取り上げられた。

植樹式は参加した小学生らによる「宇宙桜」の植え付けと、植樹を記念して「モデルロケット」の打ち上げを行った。

この「宇宙桜」は、2002年2月12日に打ち上げられた「エンデバー」で宇宙飛行士・毛利衛氏と共に11日間と5時間38分にも及ぶ宇宙飛行を行い地球へ帰還した「エゾヤマザクラ」の種を播種育生させたものである。全国科学館連携協議会を通じて毛利氏の故郷・北海道余市町より全国の

30館に配布された。

「宇宙桜」により親しみを持っていただく為に平成17年12月11日まで「宇宙桜」の愛称を募集した。愛称と採用者の発表については平成18年4月29日に「命名式」を行う予定である。

今後は、観察会などを定期的に行い子供たちに地球の自然や宇宙に対する興味関心を持つ機会を提供して行きたい。

地質科学より見た飛騨部門

【高山市教育委員会 生涯学習課主催 土曜教室】

化石クリーニング体験

期 間：平成16年4月24日10:30～12:00

平成16年6月11日10:30～12:30

参加者：10名

参加費：100円

場 所：地質科学より見た飛騨展示室（サンクンガーデン）

対 象：小学4年生～中学生

目 的：子供達に身近な飛騨地域から採取した本物の中生代の岩石（化石の入っている）を実際に手に取り、その岩石から化石を取り出す作業を通して、身近な地域から貴重な化石が産出していることや化石を取り出すことの大変さを学ぶ。更に、実際に自分の手で化石を取り出すことへの感動を味わってもらい、飛騨地域についての興味・関心をより一層引き出すことを目的とする。

内 容：飛騨地域の高山市荘川町（尾上郷）から採取した中生代（恐竜のいた時代）の地層から取り出した岩石を使用して、化石を取り出したり見えやすくしたりする。その岩石に含まれる化石（主に貝や植物）を見つけ出す。平成17年度には杉山政広先生（県立池田高校教諭）をお招きして、化石の話・化石クリーニング指導・化石の同定などをして頂いた。

評 価：思った以上に熱心に取り組んでいる子供たちが多く、スタッフでも発見できないようなちょっとした変化も見逃さず、様々な化石を見つけ出していた。なかに

は保護者の方も一緒になって、熱心に取り組んでいる方もいらしかった。

課 題：スタッフの現状の知識では十分に化石の同定をすることが出来なかった。今後、スタッフの質の向上が必要。平成17年度には杉山政広先生にお越し頂いたので、かなりレベルの高い内容となった。

今後の活用：今後も工夫しながら続けていきたい。

型から作る化石のレプリカ作り

期 間：平成16年6月12日10:30～12:00

参加者：13名

参加費：150円

場 所：特別企画展「恐竜展」展示室

対 象：小学4年生～中学生

目 的：本物の化石からレプリカを作ることで、その化石についての興味関心を促し、更に自分たちがレプリカを作った化石についての学習（ワークシートを使用）をすることにより、化石や古生物についての理解を深める。

内 容：本物の化石（三葉虫・ウミユリ・スピリファ）から型を取り（“おゆるくん”を使用）、その型を使ってレプリカを作成（“自由樹脂”を使用）する。また、展示室内の資料の解説、化石のスケッチ、ワークシートの実施などを通して、レプリカを作成する化石についての学習を行う。

評 価：作業や学習の内容自体は、日頃実施しているレプリカ作りに比べるとかなり高度で、実施時間も長かったが、子供たちは最後まで熱心に取り組んでいた。本物の化石を実際に手にしたのが初めての子供たちが多く、非常に感激していた。レプリカ作りに使用した材料は、市販されているもので比較的手に入りやすいものだったが、レプリカの完成度は高く（細かい凹凸がはっきり出ている）、子供たちも完成度の高さに感激していた。

課 題：子供によって若干の個人差があり、進度を合わせるのが難しかった。

今後の活用：全体としては子供たちにとって非常

により学習機会となったと考えられるので、今後も学習を主体とした内容のものを実施していきたい。

割り箸恐竜作り

期 間：平成16年6月26日10:30～12:00

参加者：12名

参加費：100円

場 所：地質科学より見た飛騨展示室・工作室

対 象：小学4年生～中学生

目 的：福井・石川・富山・岐阜にかけて広がる手取層群（中生代）からは、日本で発見された恐竜化石の90%が見つかっていることを知ってもらい、当館の実物大恐竜模型（カガリユウ・スギヤマリユウ）に関心を持って頂く。また、リサイクルの一環として廃材の割り箸を使用し、自由研究として家庭でも取り組めるようにする。

内 容：実物大恐竜模型を見ながらカガリユウとスギヤマリユウについての説明をした後、割り箸を使ってカガリユウを作成する。

評 価：恐竜をテーマにしたことで、子どもたちが興味をもって取り組めた。

課 題：接着剤を使用して組み立てたが、子供たちには接着剤の扱いが難しかった。子供によって個人差があった。

今後の活用：今後も恐竜をテーマにしたものを実施したい。

ジュラシック（中生代）の植物を観察して葉脈しおりを作ろう！

期 間：平成17年5月14日13:30～15:00

参加者：5名

参加費：無料

場 所：五色公園・地質科学より見た飛騨展示室

対 象：小学4年生～中学生

目 的：実際に飛騨の自然に触れながら観察（特に中生代と現代を比較しながら）することにより、身近な自然を理解させると共に飛騨の自然史に対する興味関心を促す。

内 容：小野木三郎氏（日本自然保護協会参与）を講師にお迎えし、記念館周辺の自然と

飛騨展示室の中生代の植物化石やジオラマを比較して、恐竜がいた時代の植物について学習し、中生代に栄えた生きた化石“イチョウ”の葉脈しおりを作成する。

評 価：小野木氏のお話がとても分かりやすく、ユーモアを交えた内容だった為、最初は受け身だった子どもたちも話しに引き込まれていった。植物の観察では目から鱗が落ちるような話ばかりで、驚きの連続だった。

課 題：内容はすばらしいものだったが、応募が非常に少なかった。

今後の活用：小野木氏のお話は非常に興味深い内容なので、今後もより多くの子供たちが参加できるように工夫したい。

恐竜骨格ペーパークラフトを作ろう！

期 間：平成17年10月22日10:30～12:00
参加者：5名
参加費：無料
場 所：地質科学より見た飛騨展示室・工作室
対 象：小学4年生～中学生
目 的：高山市荘川町から見つかった恐竜の骨格ペーパークラフト作りを通して、郷土への関心と古生物への興味を促す。

内 容：展示室で飛騨地域の地層や発見された恐竜などについての学習をし、高山市荘川町から歯の化石が見つかったヒブシロフォドンの骨格ペーパークラフトを作成した。

評 価：学習をした後工作をした為、子どもたちも熱心に取り組んでいた。

課 題：募集に対して、応募が非常に少なかった為、今後工夫が必要。

今後の活用：内容やタイトルを再検討して、今後実施したい。

七色に光るアンモナイトのレプリカを作ろう！

期 間：平成17年12月10日10:30～12:00
13:30～15:00
参加者：38名
参加費：400円
場 所：地質科学より見た飛騨展示室・工作室
対 象：小学4年生～中学生

目 的：レプリカ作りを通して化石やアンモナイトの不思議について学ぶ。また、最近様々な分野で使用されているLEDを使用することにより、科学への興味関心を促す。

内 容：展示室内の資料を参考にして化石（特にアンモナイト）についての学習をし、特殊な樹脂とLEDを使ってアンモナイトのレプリカを作成した。

評 価：募集の段階から定員を大幅に越える応募があり、非常に人気が高かった。アンモナイトの解説は子どもたちにも理解しやすい内容だった為、「よくわかった」「楽しかった」「またやりたい」という感想が多かった。

課 題：多くの応募があっても、対応できるようにしたい。

今後の活用：非常に人気のある企画なので、今後も続けていきたい。

【特別展体験学習】

光る恐竜の歯のレプリカ作り

期 間：平成16年6月～9月（「恐竜展」期間中）約30分
平成17年6月～9月（「恐竜ブース」期間中）約30分
定 員：5名
参加費：150円
場 所：特別企画展「恐竜展」展示室前
対 象：4才～大学生
目 的：地元高山市荘川町から発見された、肉食恐竜ヴェロキラプトル類の歯の化石のレプリカを作成することを通して、身近な地域で恐竜化石が発見されていることを知り、より一層地質科学や飛騨地域への興味関心を促す。更にLEDと特殊な透明樹脂を使用することにより、楽しく科学への関心を深められる機会を提供する。

内 容：化石や地層についての説明や地元で発見される化石について、またレプリカについての説明を行った。その後LEDを使った光る歯のレプリカを作成。樹脂の硬化中に特別企画展「恐竜展」と飛騨展示室を解説案内した。

評 価：“恐竜の歯”ということと“光る”という

ことで非常に人気が高く、期間中はほぼ毎回定員いっぱいの状態だった。対象年齢を4才からにしたこともあって、小さな子供たちの参加が多かった。

課 題：作業としては2種類の薬品を混ぜるだけだったが、混ぜ方によってはうまく硬化しないことがあった。またあまり大きな化石ではなかった為に、細かいところの型がとれないことがあった。

今後の活用：2年連続で実施したが、参加者の反応は非常によかったので今後も続けていきたい。

ミニチュア恐竜作り

期 間：平成16年8月15日 約15分
定 員：5名
参加費：無料
場 所：特別企画展「恐竜展」展示室前
対 象：4才～小3
目 的：粘土を使って簡単に恐竜を作ることで、小さい子供たちにも恐竜のことをより身近に感じてもらい、恐竜への興味関心を促すきっかけとする。

内 容：粘土を使って簡単に植物食恐竜を作成した。

評 価：対象年齢が低かった為、楽しんで参加している親子が多かった。

課 題：今回は1種類のみだったので、今後は肉食恐竜など種類を増やしていきたい。

今後の活用：低年齢の子供たちのみを対象とした体験学習は今回が初めてだったが、家族連れで来館される方には好評だったので、今後も低年齢向けを検討していきたい。

【ゴールデンウィーク・お盆期間の体験学習】

型から作る化石のレプリカ作り

期 間：平成16年4月29日・30日
5月1日 8月15日 約45分
定 員：5名
参加費：150円
場 所：地質科学より見た飛騨展示室（サンクンガーデン）

対 象：小学4年生～中学生
目 的：本物の化石からレプリカを作ることで、その化石についての興味関心を促し、更に自分たちがレプリカを作った化石についての学習（ワークシートを使用）をすることにより、化石や古生物についての学習を深める。

内 容：本物の化石（三葉虫・ウミユリ・スピリファア）から型を取り（“おゆまるくん”を使用）、その型を使ってレプリカを作成（“自由樹脂”を使用）する。また、展示室内の資料の解説、化石のスケッチ、ワークシートの実施などを通して、レプリカを作成する化石についての学習を行った。

評 価：作業や学習の内容自体は、日頃実施しているレプリカ作り比べるとかなり高度で、実施時間も長かったが、子供たちは最後まで熱心に取り組んでいた。本物の化石を実際に手にしたのが初めての子供たちが多く、非常に感激していた。レプリカ作りを使用した材料は、市販されているもので比較的手に入りやすいものだったが、レプリカの完成度は高く（細かい凹凸がはっきり出ている）、子供たちも完成度の高さに感激していた。

課 題：子供によって若干の個人差があり、進度を合わせるのが難しかった。

今後の活用：全体としては子供たちにとって非常によい学習機会となったと考えられるので、今後も学習を主体とした内容のものを実施していきたい。

化石クリーニング体験

期 間：平成16年8月15日 約60分
定 員：5名
参加費：100円
場 所：地質科学より見た飛騨展示室（サンクンガーデン）
対 象：小学4年生～中学生
目 的：子供達に身近な飛騨地域から採取した本物の中生代の岩石（化石の入っている）を実際に手に取り、その岩石から化石を取り出す作業を通して、身近な地域か

ら貴重な化石が産出していることや、化石を取り出すことの大変さを学ぶ。更に、実際に自分の手で化石を取り出すことの感動を味わってもらい、飛騨地域についての興味・関心をより一層引き出すことを目的とする。

内容：高山市荘川町（手取層群）から採取した中生代（恐竜がいた時代）の岩石から、簡単な道具を使用して化石を取り出したり、見えやすくしたりする。また、化石の出来方や化石の種類、化石から分かることなどを学習する。

評価：地元の高山市から採取された岩石ということで、身近な地域から化石が見つかるということを知らなかった子供たちには非常に新鮮で、より一層地域のことについての興味関心が深まったと思われる。非常に熱心に取り組んでいた子供たちが多く、化石を見つけるには相当の集中力が必要であるにもかかわらず、予想以上の化石を発見できた。付添って来られた父兄の中には、子供より興味深そうに見ている方もおられた。

課題：主に貝や植物の化石を見つけることはできるが、当館のスタッフでは詳しい化石の同定までは難しく、今後ある程度の種類を同定できる実力を身に付ける必要を感じた。

今後の活用：非常に人気があったので、今後も工夫しつつ続けていきたい。

七色に光るアンモナイトレプリカを作ろう！

期間：平成17年5月4日 約30分

定員：5名

参加費：500円

場所：地質科学より見た飛騨展示室（体験学習コーナー）

対象：4才～大学生

目的：レプリカ作りを通して化石やアンモナイトの不思議について学ぶ。また、最近様々な分野で使用されているLEDを使用することにより、科学への興味関心を促すことを目的とする。

内容：展示室内の資料を参考にして化石（特に

アンモナイト）についての学習をし、特殊な樹脂とLEDを使ってアンモナイトのレプリカを作成した。

評価：簡単に出来上がりもいいため好評だった。

課題：学習内容の充実が必要。

今後の活用：今後も続けたい。

七色に光る恐竜の歯のレプリカを作ろう！

期間：平成17年5月4日 約30分

定員：5名

参加費：350円

場所：地質科学より見た飛騨展示室（体験学習コーナー）

対象：4才～大学生

目的：地元高山市荘川町から発見された、肉食恐竜ヴェロキラプトル類の歯の化石のレプリカを作成することを通して、身近な地域で恐竜化石が発見されていることを知り、より一層地質科学や飛騨地域への興味関心を促す。更にLEDと特殊な透明樹脂を使用することにより、楽しく科学への関心を深められる機会を提供する。

内容：展示室内の資料を参考にして化石（特に恐竜）についての学習をし、特殊な樹脂とLEDを使って恐竜の歯のレプリカを作成する。

評価：“恐竜の歯”ということと“七色に光る”ということで非常に人気が高く、期間中はほぼ毎回定員いっぱいの状態だった。対象年齢を4才からにしたこともあって、小さな子供たちの参加が多かった。

課題：作業としては2種類の薬品を混ぜるだけだったが、混ぜ方によってはうまく硬化しないことがあった。またあまり大きな化石ではなかった為に、細かいところの型がとれないことがあった。

今後の活用：参加者の反応は非常に良かったので今後も続けていきたい。

【通常体験学習・他】

化石のレプリカ作り体験

期間：平成16年3月～12月（「恐竜展」期

間中は除く）の毎週土日・祝日約30分。

平成17年3月～7月・9月～12月の毎週土日・祝日約30分

定員：1回5名

参加費：100円

場所：地質科学より見た飛騨展示室（体験学習コーナー）

対象：4才～大学生

目的：誰でも簡単に作ることができるレプリカ作りを通して、レプリカの作り方やレプリカを作ることの意味について学習する。また、レプリカ作りを通して化石を身近に感じて頂き、その化石について学習する機会を提供する。

内容：自由樹脂…2色の自由樹脂（お湯で軟らかくなる樹脂）を使って、きれいなマーブル模様の化石（アンモナイト・三葉虫・スピリファー）のレプリカを作成。

粘土消しゴム…粘土状のものを10分間ゆでると、消しゴムになる素材を使って小さい子供でも化石のレプリカ作成を可能にした。簡単なジオラマにして完成。

評価：4才から大学生まで幅広い年齢に対応可能にしたことにより、より多くの子供達に対して体験学習を実施することができた。特に“粘土消しゴム”を使ったレプリカ作りは、小さな子供でも完成度が高いため、出来上がりの時の反応が良かった。レプリカを作成することにより、化石や古生物についての興味関心が容易に持て、子供達が日頃あまり知ることのない内容（化石や古生物について）も学習する事ができた。

課題：低年齢の子供達は個人差が激しく、予定していた時間内に終了できないことが多かった。今後は予定時間内に極力終了できるように工夫していきたい。

今後の活用：今後はより広い範囲でレプリカ作りを通して化石や古生物に興味を持って頂けるよう、他の素材や方法を考え実施していきたい。

三葉虫おりがみ作り

期間：随時

定員：1名～4名

参加費：無料

場所：図書コーナー

対象：全年齢

目的：簡単に三葉虫（古生物）を折り紙で作ることにより、三葉虫（古生物）への関心を深める。

内容：三葉虫の折り紙を作成。

評価：どなたでも都合のいい時間に出来るので、多くの参加があった。折り紙で三葉虫を作ることにより、古生物への関心を促すことができた。

課題：作り方のなかで年齢によっては難しい部分もあったので、今後は作り方を簡単にしたり、作り方が簡単なものを増やすなどの工夫が必要。

今後の活用：今後もいつでも誰でも参加できる体験学習を開発したい。

体験学習コーナー

期間：随時

定員：1名～10名程度

参加費：無料

場所：地質科学より見た飛騨展示室（体験学習コーナー）

対象：全年齢

目的：時間や年齢に関係なく、楽しく古生物について学んでいただき、化石や古生物についての関心を促す。

内容：古生物スタンプ・化石の拓本体験・恐竜パズル・触られる化石・Q & A。

評価：簡単に誰でもできるものだったため、子供に限らず様々な年齢の方が立ち寄られた。

課題：説明不足のため、一部分かりにくいものがあった。

今後の活用：今後も低年齢から高齢の方までが楽しみ、古生物や化石に興味を持って頂ける内容のものを充実したい。

ワークシート

期間：随時

定員：なし

参加費：無料
場 所：地質科学より見た飛騨展示室
対 象：全年齢
目 的：ワークシートをしながら展示室をまわることで、楽しく展示を見て頂き、古生物や化石への興味関心を促す。
内 容：展示室入り口にあるワークシートを取っていただき、各時代に設置してあるスタンプを押しながら、展示を見ていただく。
評 価：スタンプを押すだけの単純なものなので、みなさん楽しんでやって下さった。
課 題：スタンプを押すことだけに一生懸命で、スタンプを押すだけで終わってしまった方もいらっしゃった。
今後の活用：今後も続けていきたいが、工夫が必要。

人類史部門

【高山市教育委員会 生涯学習課主催 土曜教室】

親子で火おこし体験

日 時：平成16年5月8日 7月17日 11月20日（火おこし体験のみ）
定 員：10名（7月のみ＋ジュニアキュレータ5名）
参加費：1000円（11月20日は火おこし体験のみのため200円）
場 所：工作室、サンクンガーデン
対 象：親子（小学生以上）
目 的：大昔の火おこしの方法を知り、火おこしの道具作りと火おこし体験を通じて、火の大切さ、火おこしの大変さを学習する。
内 容：火の利用方法や火おこし道具の種類などを学習した後に火おこし道具（舞ざり式）を作り、実際に火をおこした。
評 価：火が点くまで、人によっては時間がかったが、火が点くと大人も子供もとても喜んで、感激した様子だった。
課 題：舞ざり式だけでなく、火おこし道具のバリエーションを増やしていきたい。
今後の活用：出張博物館など、学校向けにも活用出来るような体制を整えたい。

インカの模様でシルバーアクセサリーを作ろう！

期 間：平成17年7月23日、9月24日 約1時間30分
定 員：12名
参加費：1000円
場 所：人類史展示室前、サンクンガーデン
対 象：小学5年生以上
目 的：インカのデザインの銀製品を作ることで、デザインの面白さや銀製品の神秘性に触れる。インカで金や銀が採取され、加工されていたことも併せて理解する。
内 容：ナスカの地上絵などに見られるインカのデザインで、銀粘土製のペンダントを作成した。
評 価：焼成後に粘土を磨いてるときに、段々と銀の輝きが出てくるのを見て参加者がとても感動されていた。
課 題：参加費と作成時間を聞いて、尻込みされる方も多かった。作成時間に関しては途中で乾燥させる時間が20分ほどあり、その間は自由に見学して頂けることを伝えたい。
今後の活用：デザインを変えたりして、インカ文明展の体験学習だけでなく幅広く活用出来るよう工夫していきたい。

【特別展体験学習】

金粉でナスカの地上絵を描こう

平成17年7月1日～12月11日（「インカ文明展」開催期間中） 毎週土日・祝日 約30分
定 員：3名
参加費：無料
場 所：特別企画展「インカ文明展」展示室前
対 象：小学4年生以上
目 的：金粉でナスカの地上絵を作ることで、ナスカやインカ文明への興味を促す。
内 容：金粉を使ってナスカの地上絵を作成した。
評 価：無料ということもあり、気軽に体験されていた。
課 題：出来上がりの見栄えが若干良くないこともあった。完成度の高いものを提供でき

るように、提供する側も経験を積んで、お客様に満足して頂けるよう努めたい。

インカの衣装試着体験

期 間：平成17年7月1日～12月11日（「インカ文明展」開催期間中）
定 員：なし
参加費：無料
場 所：特別企画展「インカ文明展」展示室前
対 象：全年齢
目 的：インカの衣装を身に着けることにより、素材やデザインなどについて学習する。
内 容：インカの民族衣装を身につけ、マチュピチュの風景写真を背景に写真撮影ができるコーナーを設けた。
評 価：人が少ないときは恥ずかしいのか抵抗があるように見られたが、ひとたび誰かが記念撮影をはじめると行列が出来ることもあった。また、一緒に設置したリヤマのぬいぐるみも非常に好評だった。
今後の活用：マヤなどの民族衣装と組み合わせ、多くの文化の民族衣装を試着体験できるコーナーを設けたい。

パズル（南米、リヤマ、12角の石壁）

期 間：平成17年7月1日～12月11日（「インカ文明展」開催期間中）
定 員：なし
参加費：無料
場 所：特別企画展「インカ文明展」展示室
対 象：全年齢
目 的：パズルを通して、インカ文明と関わりのある国々について学習する。
内 容：インカ文明に関係する南米大陸の国のパズル。リヤマのパズル。ペルーのクスコにある12角の石壁をモチーフにしたパズルを設置した。
評 価：パズルが完成した状態のままだと、興味を惹かれず素通りしてしまうことが多かった。バラバラな状態にしておいたところ、とりあえずやってみようかなと手に取ってくれた。
課 題：バラバラにしておくなど、パズルと気付いてもらうことが必要。

顔出しパネルで記念撮影

期 間：平成17年7月1日～12月11日（「インカ文明展」開催期間中）
定 員：なし
参加費：無料
場 所：特別企画展「インカ文明展」展示室前
対 象：全年齢
目 的：アンデスの雰囲気を感じていただく。
内 容：アンデスの民族衣装を着た人物とリヤマの顔出しパネルで、記念撮影できるコーナーを設けた。
評 価：展示室前であって目を惹くこともあり、観光客や子どもたちが記念に写真を撮る様子が見られた。
課 題：記念撮影は、はじめは躊躇されるが一度その気になれば多くの方が利用して下さるので、やってみようというきっかけを作れるよう工夫していきたい。

黄金の部屋記念撮影コーナー

期 間：平成17年7月1日～12月11日（「インカ文明展」開催期間中）
定 員：なし
参加費：無料
場 所：特別企画展「インカ文明展」展示室前
対 象：全年齢
目 的：記念撮影をしながら、インカ文明の歴史に触れる。
内 容：インカ帝国最後の皇帝アタワルパが命乞いをした際に、部屋いっぱい黄金を用意した様子を再現した記念撮影のコーナーを設けた。
評 価：実際の見たい目は黄金の感じは弱いですが、撮影した画像を見ると輝きがあって雰囲気が出ており、多くの方がカメラや携帯電話で撮影をされていた。
課 題：記念撮影は、はじめは躊躇されるが一度その気になれば多くの方が利用して下さるので、やってみようというきっかけを作れるよう工夫していきたい。

福笑い（アーモンドアイ）

期 間：平成17年7月1日～12月11日(「インカ文明展」開催期間中)
定 員：なし
参加費：無料
場 所：特別企画展「インカ文明展」展示室前
対 象：全年齢
目 的：アンデスの仮面に見られるアーモンドアイなど、アンデスのデザインの特徴を学ぶ。
内 容：当館所蔵の銀製仮面の顔をモチーフにした福笑いを設置した。
評 価：パズル同様、完成した状態では素通りしてしまうことが多かった。
課 題：パズル同様、半分だけ出来ているなど興味を持ってもらえる工夫が必要。

ワークシート

期 間：平成17年7月1日～12月11日(「インカ文明展」開催期間中)
定 員：なし
参加費：無料
場 所：特別企画展「インカ文明展」展示室
対 象：全年齢
目 的：ワークシートのスタンプラリーをしながら展示室をまわることで、楽しく展示を見て頂き、展示品などへの興味関心を促す。
内 容：「インカ文明展」展示室と人類史展示室に設置してあるスタンプをワークシートに押しながら展示を見ていただいた。
評 価：多くの方がワークシートを手に取り、スタンプラリーに夢中になっていた。また、「インカ文明展」展示室だけでなく、人類史展示室のスタンプラリーも一緒に載せたことにより、インカ文明展を見終わった後に、人類史展示室にもスタンプラリーをしに行ってみようという動線ができた。
課 題：「インカ文明展」展示室の入口が奥にあったことから、出口側から入られて一通り見終わった後にワークシートに気付かれて、スタンプを押しに行く方が多く見られた。また、スタンプ探しに夢中になり、スタンプラリーだけで終わってしまう方

もいらっちゃった。
今後の活用：評判も良く、工夫次第で動線を作れることも分かったので、今後も趣向を凝らしたものを作成していきたい。

アンデスの楽器に触れてみよう

期 間：平成17年7月1日～12月11日(「インカ文明展」開催期間中)
定 員：なし
参加費：無料
場 所：特別企画展「インカ文明展」展示室
対 象：全年齢
目 的：アンデスの楽器に触れることにより、アンデスの文化への興味を促す。
内 容：レインスティック、サンポーニャ、オカリナなどアンデスの楽器に自由に触れていただいた。
評 価：多くの方が気軽に楽器に触れ、楽しんでいた。
課 題：ケーナが揃わなかったため、次回似たような体験学習がある時は、なるべく関わりのあるものが全種類揃うよう努力したい。
今後の活用：次回の企画展でも、その内容に合わせて hands on 出来るような楽器や工芸品等を揃えたい。

金属アクセサリー作り

期 間：平成17年7月1日～12月11日(「インカ文明展」開催期間中) 毎週土日・祝日 約30分
定 員：3名
参加費：100円
場 所：特別企画展「インカ文明展」展示室前
対 象：小学4年生以上
目 的：金製品をモチーフにしたアクセサリーの作成を通して、インカやアンデスの文明への関心を深める。
内 容：真鍮を使ってアンデスの金製品をモチーフにしたアクセサリーを作成した。
評 価：真鍮の輝きが金製品に近く、喜んで作成して頂けた。
課 題：参加者の様子をよく見ていないと、切らなくてもよい部分を切ってしまうたりす

ることがあった。また、尖がった部分があったので、角を丸くする工夫が必要である。
今後の活用：新しいデザインのものを作る際には、より手軽に取り組めるよう工夫していきたい。

ガイドツアー

日 時：平成17年7月1日～12月11日(「インカ文明展」開催期間中) 毎週日・祝日 約30分
定 員：制限無し
参加費：無料
場 所：地下2階特別企画展『インカ文明展』展示室
対 象：全年齢
目 的：展示解説により、インカ文明展をより深く理解していただく。
内 容：当館学芸員による企画展の展示解説。
評 価：日によって集まる人数は違ったが、少ない時でも進めていくうちに次第に人が集まってくるが多かった。
課 題：より分かりやすく、楽しく、ためになるような展示解説を提供できるよう、研鑽を積んでいく必要がある。

【ゴールデンウィーク・お盆期間の体験学習】

親子で火おこし体験

期 間：平成16年5月2日・3日 8月12日・13日・16日、平成17年5月5日
定 員：5名
参加費：1000円
場 所：工作室、サンクンガーデン
対 象：小学4年生以上
目 的：大昔の火おこしの方法を知り、火おこしの道具作りと火おこし体験を通じて、火の大切さ、火おこしの大変さを学習する。
内 容：火の利用方法や火おこし道具の種類などを学習した後に火おこし道具(舞ざり式)を作り、実際に火をおこした。
評 価：火が点くまで、人によっては時間がかかったが、火が点くと大人も子供もとても喜

んで、感激した様子だった。
課 題：舞ざり式だけでなく、火おこし道具のバリエーションを増やしていきたい。
今後の活用：出張博物館など、学校向けにも活用出来るような体制を整えたい。

インカの模様でシルバーアクセサリーを作ろう！

日 時：平成17年8月15日 約1時間
定 員：5名
参加費：1000円
場 所：人類史展示室前、サンクンガーデン
対 象：親子(小学生以上)
目 的：インカのデザインの銀製品を作ることで、デザインの面白さや銀製品の神秘性に触れる。インカで金や銀が採取され、加工されていたことも併せて理解する。
内 容：ナスカの地上絵などに見られるインカのデザインで、銀粘土製のペンダントを作製した。
評 価：初回の7月は不慣れだったこともあり、予定より時間がかかってしまったが、試行錯誤の結果、予定の時間内に収まるよう作成行程を修正でき、また作成技術も向上した。
課 題：人数が多くても対応できるよう、受入れ準備をする必要がある。
今後の活用：デザインを変えたりして、インカ文明展の体験学習だけでなく幅広く活用できるよう工夫していきたい。

【通常体験学習・他】

ミサンガ作り

期 間：平成16年3月～12月 毎週土日・祝日 約15分、平成17年3月～12月 毎週土日・祝日 約15分
定 員：5名
参加費：無料
場 所：人類史展示室前
対 象：小学4年生以上
目 的：マヤの時代から今日まで伝わっている編み方を学習する。

内 容：毛糸を使ってマヤ人が身につけているミサンガを作成した。
課 題：ミサンガ作りの体験学習が平成17年で3年目ということもあり、新鮮味に欠ける感があった。ミサンガ作りの中では比較的易しい作り方のものを選んだつもりだったが、子供達にはやや難しく、時間がかかった。

ペーパークラフト作り

期 間：平成16年3月～12月 毎週日・祝日 約15分、平成17年3月～12月 毎週日・祝日 約15分

定 員：5名
参加費：無料
場 所：人類史展示室前
対 象：小学4年生以上
目 的：世界各地の文明の建築様式や特徴を立体的に学習する。

内 容：エジプトやマヤのピラミッド、アンデスの太陽の門などのペーパークラフトを作成した。

評 価：太陽の門など新しくて簡単なものも加わり、作る際の選択肢が増した。

課 題：小学校低学年でも希望者がいるので、ハサミで出来るようなものも検討していく必要がある。

オリジナルマヤカレンダー作り

期 間：平成16年3月～12月

定 員：5名
参加費：無料
場 所：人類史展示室前
対 象：小学生以上
目 的：マヤ文字とマヤの暦（農耕暦）の学習。
内 容：西暦の日付をマヤの農耕暦の日付に換算し、台紙にマヤ文字スタンプを押して、オリジナルのマヤカレンダーを制作した。

評 価：日付をマヤの暦に換算する事が難しい。
課 題：わかりやすい換算表記をできるように取り組みたい。

体験学習コーナー

日 時：常時

定 員：なし
参加費：無料
場 所：人類史展示室（体験学習コーナー）
対 象：全年齢
目 的：時間や年齢に関係なく、楽しく世界の文明について学んでいただけるよう、関心を促す。

内 容：Q&A・土器パズル・古代文字スタンプ・拓本スタンプ・オルメカ福笑い。

評 価：スタンプラリーの効果もあり、多くの方が足を止めて、スタンプやパズルを夢中になってされていた。

課 題：古代文字スタンプに関しては、説明無しでは何をしてもよいのかわかりにくいところもあった。

今後の活用：幅広い年齢層に興味を持って頂けるよう、よりわかりやすかつ内容の充実したものにしていきたい。

美術部門

【高山市教育委員会 生涯学習課主催 土曜教室】

キラキラ光る万華鏡作り

日 時：平成16年7月24日
10:00～12:00

参加者：20名
場 所：工作室
対 象：小学3年生～中学生
目 的：身近な素材を利用することにより創意工夫、リサイクルの視野を養う。世界に一つのオリジナル万華鏡を作り、光の芸術を楽しむ。鏡にうつる光の反射が鏡の枚数によってどのように変わるか考察し体験する。

内 容：身近な素材から用意したオリジナルキットを利用し、万華鏡を作成する。黒い紙を使って鏡の組み合わせを変え、見える映像の違いを考察する。

評 価：ひとつの万華鏡に黒い紙を入れる事で、二面鏡と三面鏡を交互に見比べることが出来た。自分で作ることで万華鏡の仕組みをより理解出来た。カレンダーの裏紙

やスーパーの袋など身近な素材を利用したことに評価が高かった。身近な素材を創意工夫することでコストの削減が出来た。参加者それぞれがオリジナルの万華鏡を作ることが出来た。

課 題：参加者の年齢により制作時間に差があった。オリジナルキットの作成に時間がかかった。

絵手紙で年賀状を書こう

日 時：平成16年11月27日10:00～12:00

参加者：10名
場 所：工作室
対 象：小学校3年生～中学生
参加費：100円
目 的：画材になる物を通して観察する力を養う。絵を描く楽しさを知る。

内 容：画材をよく観察し、墨で輪郭を書き、水彩絵の具で着色してオリジナル年賀ハガキを作成した。

評 価：よく観察して描くことが出来た。参加者から、手紙やハガキなどに絵を描いてみて、「難しく考えず今後も描いて見たいと思った」という声を頂いた。

課 題：説明が長くなってしまい、少し飽きさせてしまった。時間の関係で、未完成の作品が多くなってしまった。

山内大童の墨彩画教室

日 時：平成17年4月30日10:00～12:00

参加者：15名
場 所：工作室
対 象：高山市内の小学3年生～中学生
参加費：300円
目 的：作家から直接簡単な墨彩画の技法を学ぶ。絵を描く楽しさを体験する。

内 容：作家の作画風景を見たり、作家からアドバイスを頂きながら墨と筆を使って作品を仕上げた。

評 価：作家から直接指導を受けられたことに評価が高かった。あまりなじみがない筆を上手に使えるようになった。絵を描く楽しさがより深まった。

課 題：申し込みを断わるほどの反響があった為、

参加定員を増やせばよかった。

絵手紙で暑中見舞いを書こう

日 時：平成17年7月16日10:00～12:00

参加者：6名
場 所：工作室
対 象：小学校3年生～中学生
参加費：100円
目 的：画材になる物を通して観察する力を養う。絵を描く楽しさを知る。

内 容：画材をよく観察して、墨で輪郭を書き、水彩絵の具で着色してオリジナルハガキを作成した。

評 価：よく観察して書くことが出来た。手紙やハガキなどに絵を描く楽しさを知って頂けた。前回の反省を生かし説明を短くした為テンポよく進めることが出来た。

課 題：決まった画材だけで時間がいっぱいになってしまい、自由な画材では描けなかった。

絵手紙で年賀状を書こう

日 時：平成17年11月26日 10:00～12:00

参加者：4名
場 所：工作室
対 象：小学校3年生～中学生
参加費：100円
目 的：画材になる物を通して観察する力を養う。絵を描く楽しさを知る。

内 容：画材をよく観察し、墨で輪郭を書き、水彩絵の具で着色してオリジナル年賀ハガキを作成した。

評 価：よく観察して書くことが出来た。手紙やハガキなどに絵を描く楽しさを知って頂けた。前回の絵手紙教室に参加した子供がリピーターとして参加していた。

課 題：子供達が選べるような画材の種類が少なかった。

【特別展体験学習】

コラージュ体験

日 時：平成16年9月18日～11月14日
常時体験可

場 所：特別企画展「画境須田剋太展」展示室
対 象：年齢問わず
参加費：無料
目 的：コラージュ制作に対する理解を深める。
内 容：用意された台紙にボタン、ビーズ、ネジ
など身の回りにある様々なものを張り付
けていった。
評 価：想像力を働かせ、楽しみながら現代ア
ートの体験できた。経験する事でコラ
ージュに対する理解が深まった。
課 題：係員が常時必要だった。細かい折り紙な
どのゴミが散らかりやすかった。

【ゴールデンウィーク・お盆期間の体験学習】

大きな書を書いてみよう

日 時：平成16年5月5日 13:15～
参加者：5名
場 所：工作室
対 象：年齢問わず
目 的：文字の形に意味を持たせて書く事で現代
書を学ぶ。創造性を育み、書に親しみを
持たせる。
内 容：大型の現代書を参考に書の説明を受けた
後、参加者は105×135cmサイズの
半紙に大きな筆で好きな文字を自由に書
き、落款を押して仕上げた。
評 価：一文字を短時間で一気に仕上げる事で集
中力が養えた。文字の形に意味を持たせ
て書くという現代書を体験できた。
課 題：和紙を使用した為、参加費が高くなった。
準備に時間がかかった。スタッフを5名
要した。

ガラス絵

日 時：平成16年8月10日
11:15～、14:00～
参加者：16名
場 所：工作室
対 象：年齢問わず（小学3年生以下は保護者同
伴）
参加費：100円
目 的：ガラス絵の歴史と簡単な技法を学ぶ。自
由にデザインさせることで創造性を育む。
内 容：ガラスのできたコースターにアクリル絵
の具で絵を書く。
評 価：ガラスのように透明な素材へ描く体験は

初めてという人が多かった為喜ばれた。
保護者も一緒になって参加する事ができ
た。

課 題：絵の具が乾くのに時間がかかった。制作
に時間がかかった。

大きな書を書いてみよう

日 時：平成16年8月11日 11:15～、
14:00～（参加者：15名）
場 所：工作室
対 象：年齢問わず
参加費：300円
目 的：文字の形に意味を持たせて書く事で現代
書を学ぶ。創造性を育み、書に親しみを
持たせる。書を書く楽しみを味わう。
内 容：大型の現代書を参考に書の説明を受けた
後、参加者は105×135cmサイズ
の半紙に大きな筆で好きな文字を自由に
書き、落款を押して仕上げた。
評 価：一文字を短時間で一気に仕上げる事で集
中力が養えた。文字の形に意味を持たせ
て書くという現代書を体験できた。半紙
以外の材料を使用する事で参加費を下げ
る事ができた。仕上げに落款を押すこと
で落款の意味を学ぶ事が出来た。
課 題：スタッフを少なくする事で若干お客様を
お待たせしてしまった。

大きな書を書いてみよう

日 時：平17年5月3日 11:15～、13:15～、
15:15～
場 所：工作室
対 象：年齢問わず
参加費：300円
目 的：文字の形に意味を持たせて書く事で現代
書を学ぶ。創造性を育み、書に親しみを
持たせる。書を書く楽しみを味わう。
内 容：大型の現代書を参考に書の説明を受け、
参加者は105×135cmサイズの半
紙に大きな筆で好きな文字を自由に書き、
落款を押して仕上げた。
評 価：一文字を短時間で一気に仕上げる事で集
中力が養えた。文字の形に意味を持たせ
て書くという現代書を体験できた。半紙
以外の材料を使用した事で参加費を下げ
る事ができた。仕上げに落款を押すこと
で落款の意味を学ぶ事が出来た。

課 題：筆の種類を増やすなどの工夫が足りな
かった。

キラキラ光る万華鏡作り

日 時：平成17年8月16日 11:15～、
13:15～、15:15～
参加者：17名
場 所：工作室
対 象：小学校3年生以上
参加費：100円
目 的：身近な素材を利用することにより創意工
夫、リサイクルの視野を養う。世界に一
つのオリジナル万華鏡を作り、光の芸術
を楽しむ。鏡にうつる光の反射が鏡の枚
数によってどのように変わるかを観察し、
見比べる。
内 容：身近な素材から用意したオリジナルキッ
トを利用し、万華鏡を作成した。黒い紙
を使って鏡の組み合わせを変え、見える
映像の違いを考察した。
評 価：ひとつの万華鏡に黒い紙を入れる事で、
二面鏡と三面鏡を交互に見比べることが
出来た。自分で作ることで万華鏡の仕組
みがより理解できた。カレンダーの裏紙
やスーパーの袋など身近な素材を利用し
たことに評価が高かった。身近な素材を
創意工夫することでコストの削減が出来
た。参加者それぞれがオリジナルの万華
鏡を作ることが出来た。
課 題：参加者の年齢によりテーブルを分けたが、
制作時間に差があった。オリジナルキッ
トの作成に時間がかかった。

資料貸出

資料名	分類	貸出先
上村松園「四季美人図」	絵画	三重県立美術館
上村松園「三美人之図」	絵画	三重県立美術館
佐藤太清「旅愁」	絵画	板橋区立美術館
葛飾北斎「富嶽三十六景」(全46点)	版画	福岡市博物館
葛飾北斎「日・龍・月」	肉筆画	東京国立博物館
葛飾北斎「日蓮」	肉筆画	東京国立博物館
葛飾北斎「日蓮」	肉筆画	米国 フリアー美術館
エミール・ガレ「ひとよ茸ランプ」	工芸	高山ガラス美術館
層孔虫・海綿・藻類化石(22点)	化石	財団法人 自然史科学研究所
フズリナ(17点)、四放サンゴ(3点)	化石	財団法人 自然史科学研究所
ベレムナイト(13点)	化石	東京学芸大学 松川正樹

新種紹介

資料名
床板サンゴ <i>Thamnopora hayasakai</i> sp. (paratype)